

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 萩ヶ丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活にかいて不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

萩ヶ丘 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成 2 5 年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成 2 7 年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回っていたが、漢字を読む力は全国平均正答率を上回るものがあった。また、昨年度より平均正答率は上昇していた。 漢字を正しく書くことに課題があり、正しく表現する力を付ける必要がある。 無解答率が昨年度より少なくなった。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むについては、平均正答率が高かった。 	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題の平均正答率が全国平均正答率よりもかなり低かった。 話の聞き方の説明として適切なものを選択する問題について、平均正答率が低かった。 	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を下回っていたが、目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする力は、全国平均正答率を上回った。また、昨年度より平均正答率がかなり上昇した。 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら書いたり、文と図を関連付けながら書いたりする力に課題がある。 無解答率が昨年度よりも少なくなったが、福岡県の無解答率よりもわずかに上回った。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする問題の平均正答率がかなり高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く問題についての平均正答率が全国平均正答率よりもかなり低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を下回っていたが、くり上がりのある2位数の加法の計算や見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解する力やグラフに表されている事柄を読み取る力は、全国平均正答率を上回った。 昨年度より平均正答率が下降した。 無解答率が昨年度より低くなったが、福岡県の無解答率を上回っていた。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	くり下がりのある2位数の加法の計算は正答率が100%だった。	下回っている
	努力が必要な問題	180度よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角をもとに捉える問題の正答率が全国平均正答率よりもかなり低かった。	

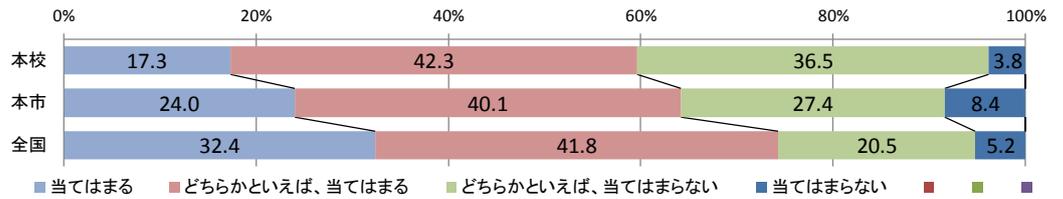
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を下回った。 数学的な考え方を記述する問題では、全国平均正答率に比べ、平均正答率が高かったが、この問題に対する無解答率はかなり高かった。 全体的に、無解答率も昨年度より低くなったが、まだ、福岡県の無解答率を上回っている。 単位量あたりの問題や割合の問題を正しく解くことに課題がある。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 長方形の面積を2等分する考えをもとに、分解された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題や概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、答えの理由を記述する問題の平均正答率が高かった。 	下回っている
	努力が必要な問題	単位量あたりの大きさをを用いて、目的に応じた買い物の仕方を選択し、代金を求める問題の平均正答率が全国平均正答率よりもかなり低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を下回った。実験結果の分析において、資料を基に考察し、その理由を説明したり、記述したりする問題に課題がある。 A問題では、全国の無解答率をすべて下回った。B問題においては、昨年度より無解答率は下がったものの、福岡県の無解答率を上回っていた。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 示された器具の名称を書く問題の平均正答率がかなり高かった。 	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な概念やデータを基に考察し、判断の根拠について明確にし、理由を説明する問題は、平均正答率が低かった。 	

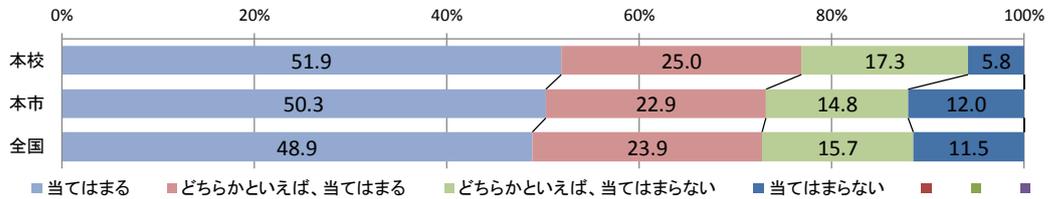
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

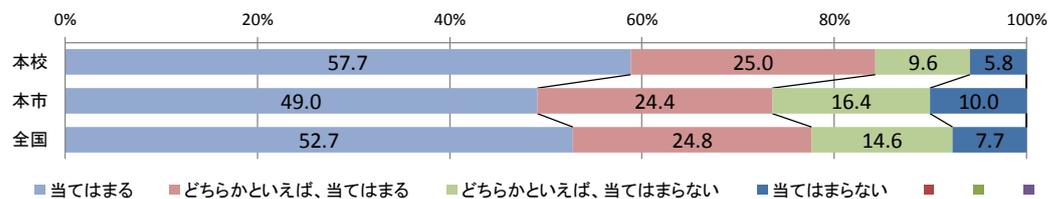
40
授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。



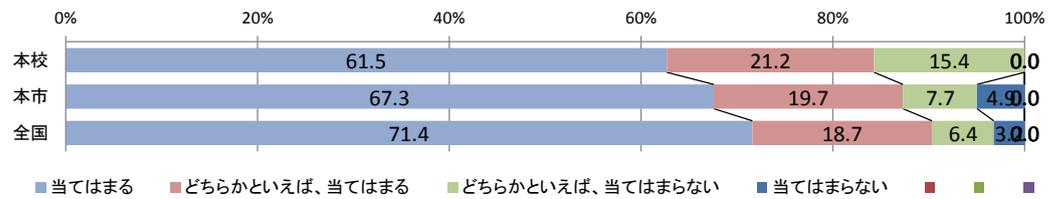
51
読書は好きですか。



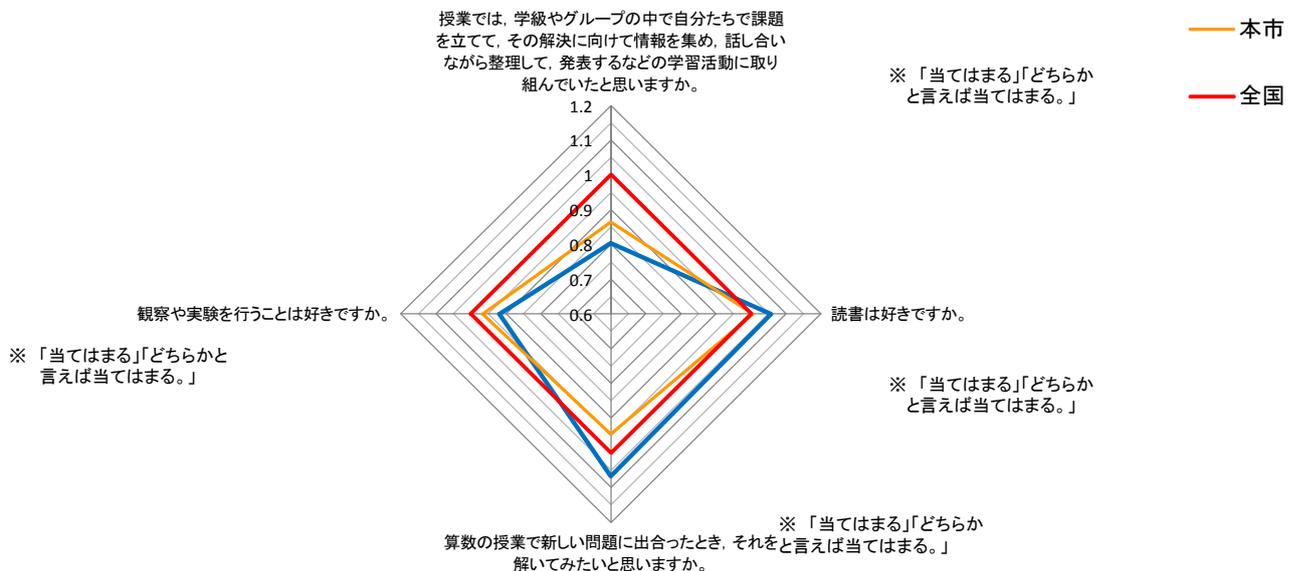
61
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。



78
観察や実験を行うことは好きですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

「読書が好き」と答える児童の割合が、76%を超え、全校で取り組んでいる読書タイムや読み聞かせ、読書の記録、学級文庫の活用などの成果が出てきている。また、国語の学習に意欲的に取り組む傾向が見られ、文章を書くことの抵抗感が全国と比較してもかなり低くなっている。一方で目的に応じて資料を読んだり、自分の考えを話したり、書いたりすることは、全国と比較してもその差は大きい。今後は、自分で課題を見つけ、表現していく授業を行っていく。

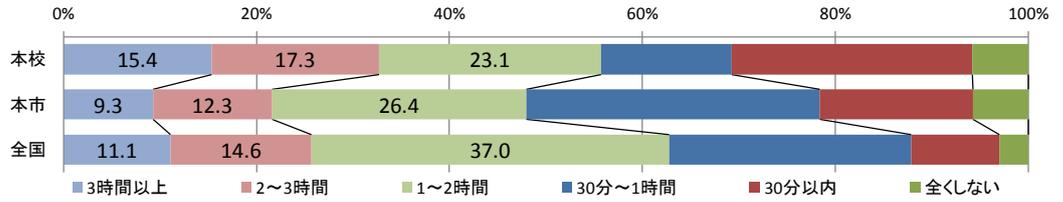
- 算数の学習に対する意欲が全国平均を上回っており、学習した内容を普段の生活に活用しようとしたり、もっと簡単に解く方法はないかと積極的に問題に取り組む姿勢が育っている。今後も学ぶことの楽しさを味わえる授業を行っていく。
- 理科の学習に対する関心・意欲が全国平均を下回っている。その原因として、将来その学習が役立つと考えている児童が少なかったり、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと考えている児童が少ないことが考えられる。今後は、キャリア教育を充実させ、理科や科学の必要性や楽しさを学べる授業を行っていく。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

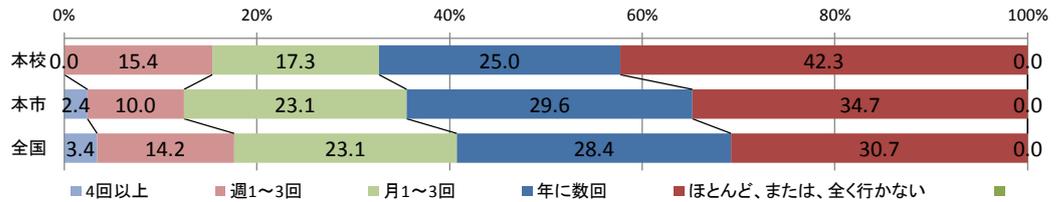
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

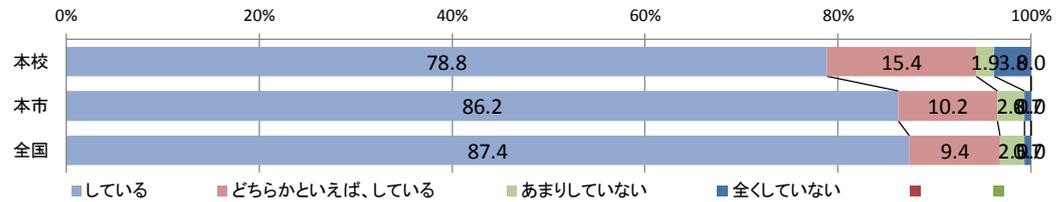
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



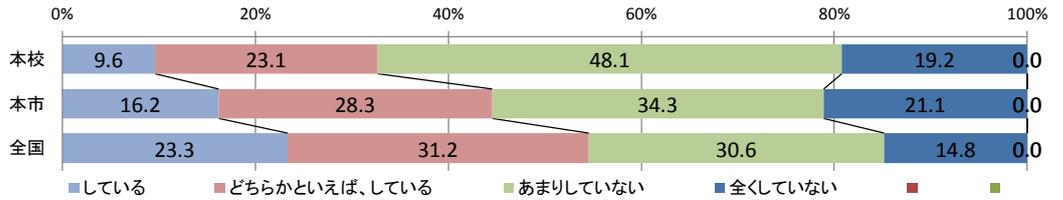
17
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



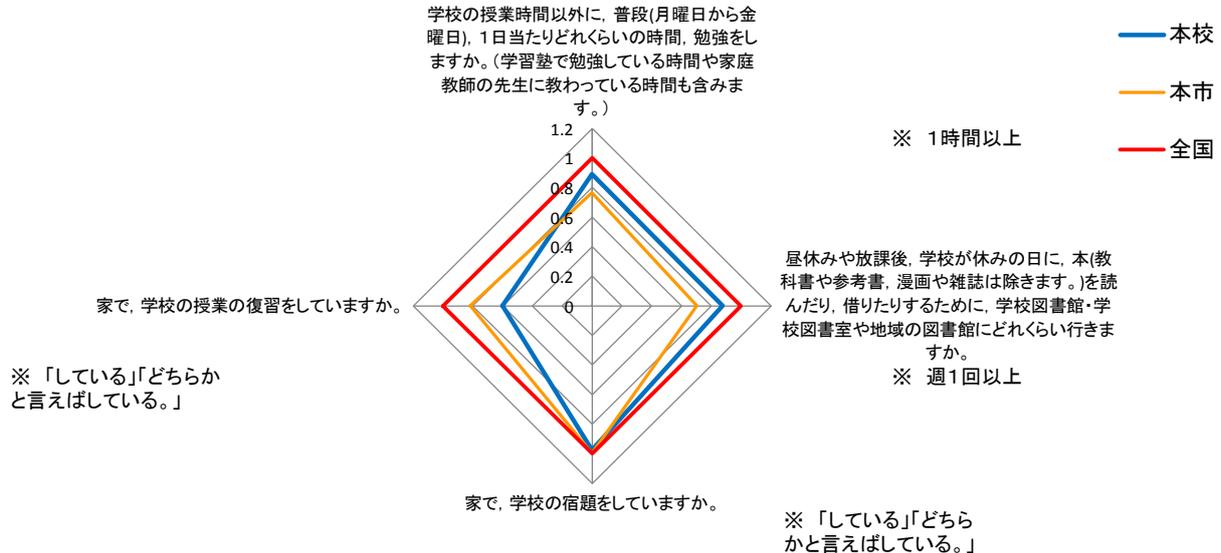
21
家で、学校の宿題をしていますか。



23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

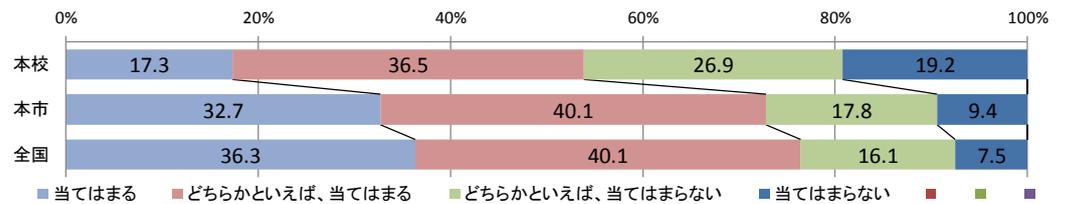
・普段、2時間以上家庭学習をしている児童の割合が全国平均よりも7ポイント上回っていたが、1時間より少ない時間しか家庭学習をしていない児童の割合が全国平均より7ポイント上回っていた。中には全くしない児童もいた。スタディーウィークの取り組みを継続して行い、家庭学習の習慣を定着していく必要がある。

・読書は好きだが、昼休みや放課後、休みの日に図書室や地域の図書館に行く児童の割合が低かった。図書館のひみつを探る学習を年間のカリキュラムに継続して位置付け、活用の機会を増やすようにする。

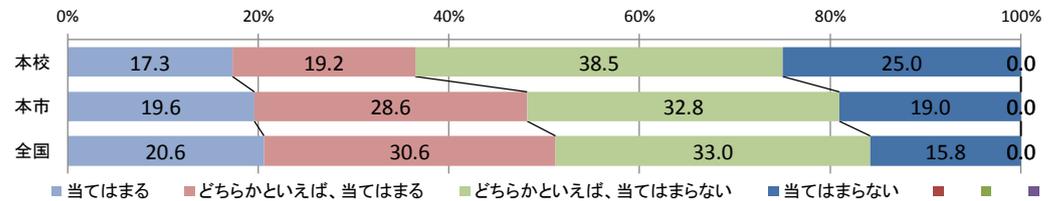
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

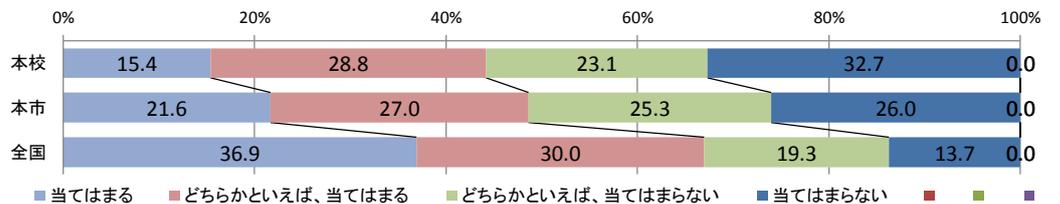
6
自分には、よいところがあると思いますか。



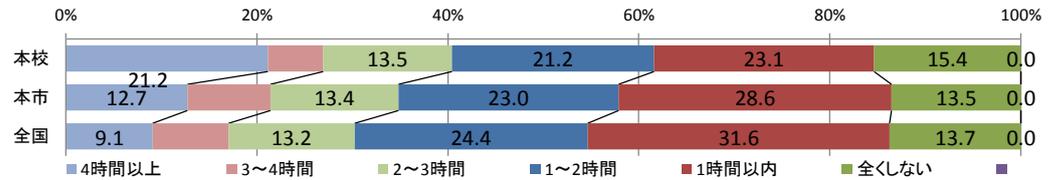
7
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



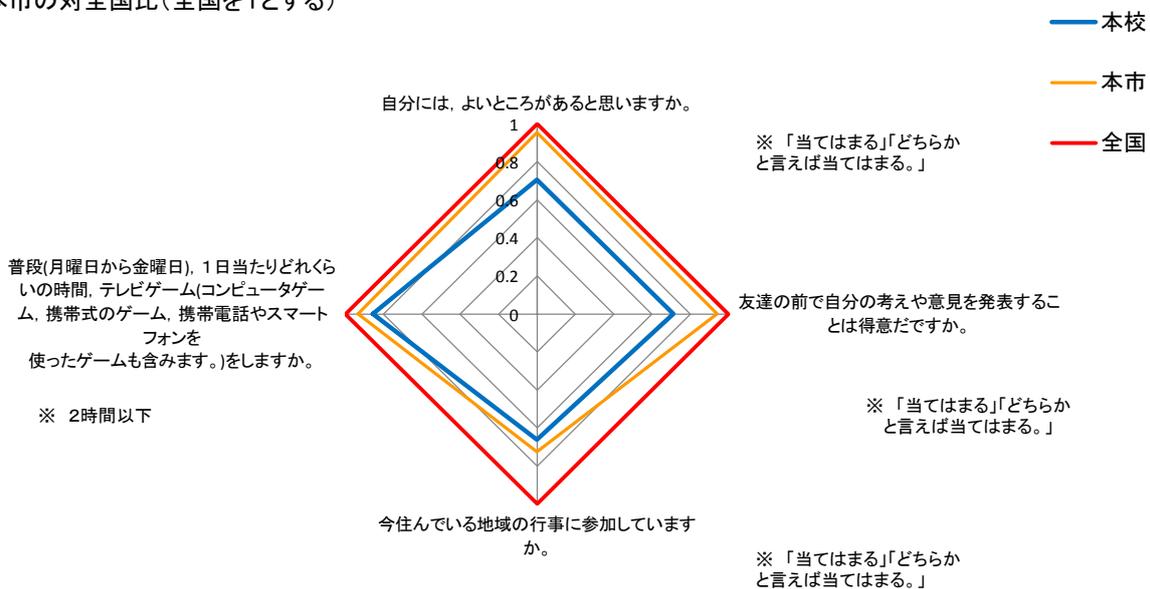
27
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



11
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・毎日同じ時刻に寝たり、起きたりする児童の割合は全国と同じくらいであるが、あまり決まった時刻に起きたり、寝たりしない児童の割合は全国より10ポイント以上上回っていた。原因として、テレビやゲーム等への接触時間にあると考えられる。(テレビやゲームへの接触時間が3時間以上の割合が全国と比較しても10ポイント上回っていた。)生活習慣の見直しが必要である。

・将来の夢や目標をもつ児童の割合は、全国と比べても9ポイント以上上回っていた。しかし、自尊心が低い傾向にある。小さな成功体験の積み重ねやよさを見付け合い、認め合う経験を増やしていく必要がある。また、地域の行事への参加も促し、地域全体で認め合う機会を増やしていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・自分の意見や考えを伝え合う中で、よりよい意見や考えにできるような交流の仕方を学ばせるために、授業の中に「交流タイム」を設け、コミュニケーションの力を育てる研究に取り組む。10月21日、11月11日、11月18日、11月25日に授業を伴った主題研究を設定し、よりよい交流タイムの在り方を全職員で研修する。

・少人数指導教員と連携を図り、年間計画に従って算数の授業を学級分割で行ったり、TT形式で行ったりして、より指導が行き届いた分かりやすい授業に取り組む。

・月曜日は音読、火曜日は国語、水曜日は読書、木曜日、金曜日は計算というように、朝自習で取り組む内容を学校全体で統一し、確実に実施することで、基礎学力の定着を図る。特に音読は、月はじめの月曜日に全校放送で一斉音読に取り組む。音読の楽しさを味あわせるとともに、みんなで一つの目標の向かって取り組む楽しさも味あわせたい。

・木曜日と金曜日の計算タイム(朝自習)が確実に実施できるように、少人数指導教員の協力の下、アシストシートや教材の付属のワークシート等を活用し、プリントを必ず用意する。10分間で答えあわせまでができる無理のない問題数のものを選択する。

・10月から週に1回の学力保障と見えづらさによって学習に困難を抱える児童に対して見る力を付けるトレーニングを給食指導中に継続して行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・中学校区全体が家庭学習に取り組むために、大里東小学校と戸ノ上中学校と連携して、10月8日(木)～10月14日(水)と2月10日(水)～2月16日(火)をスタディーウィークを設定する。家庭学習カードを全児童に配付し、家庭学習の記録を取っていく。取組の様子や結果を学校便りで配信し、保護者への家庭学習に対する関心を少しでも高めてもらう。

・毎朝8時26分から「萩小ストレッチタイム」とし、保健委員会作成のCDを全校放送する。静かな音楽とともにストレッチをすることで、体をほぐし、姿勢保持を意識させるようにする。

・1学期末に実施した生活アンケートの結果を学校便りで公表し、各家庭で生活習慣を見直すきっかけを設けられるようにする。

・12月と1月の「萩ヶ丘小学校生活のきまり」を配布し、長期休暇期間中の生活の仕方を共通理解できるようにする。